教科 国語 学年 第2学年

	1	T	<u> </u>	単元のまとまりの評価規準	_
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ことばと であおう		□■詩を体を動かしながら声に出して読ん だり、日記を書いたりすることを楽しみ、国 語学習への意欲をもつ。			
ちいさい おおきい		□体を動かしたり、声の大きさを工夫しながら、楽しく読もう。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒⑩知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒⑩思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	言葉の響きなどに気を付けて音 読している。([知識及び技能] (1)ク)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)	【態度】すすんで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
つづけて みよう -日記-	4	■毎日の生活を振り返り、日記を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「〜」及び「を」の使い方、句読点で対ち方、かぎ(「」)の使い方を理解してや文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →◎思判表B(1)ア ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)イ	(1)\$)		【態度】すすんで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
声の ものさしを つかおう	3	◇いろいろな場面で、話す声の大きさを考えて、気を付けて話すことの大切さに気付く。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢やロ形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒ ◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒ ◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢やロ形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ)	と・聞くこと」において、伝えたい 事柄や相手に応じて、声の大き さや速さなどを工夫している。	速さなどを工夫し、学習の見通

120.2146	, ,				
とうじょう人物の した ことに 気を つけて 読もう	/	口登場人物の様子を思いうかべながら読み、くまの子になったつもりで音読する。			
20, 0 8,00	/	,, (0.0) 1, 1 0.0 / C 1 0 / C 1 0 0 0 0			
	/				
	/				
	/				
「えいっ」		△言葉には、事物の内容を表す働きや、経			
		験したことを伝える働きがあることに気付くこ	言葉の響きなどに気を付けて音 読している。(〔知識及び技能〕		
			流している。([知識及び技能] (1) ク)	ことを落とさないように集中して	
		けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク		聞き、話の内容を捉えて感想を	としている。
		◇伝えたい事柄や相手に応じて, 声の大き さや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A		もっている。(〔思考力,判断 力.表現力等〕Aエ)	
		(1)ウ		73, 9, 9, 9, 7, 7, 7	
		◇話し手が知らせたいことや自分が聞きた いことを落とさないように集中して聞き、話の		◎【思考·判断·表現】「読むこ と」において,場面の様子や登	
		内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A		場人物の行動など、内容の大	
		(1)エ 		体を捉えている。(〔思考力, 判	
		□場面の様子や登場人物の行動など,内容 の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ		断力,表現力等〕Cイ)	
	13	□場面の様子に着目して、登場人物の行動		◎【思考・判断・表現】「読むこ	
	13	を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)		と」において,場面の様子に着 目して,登場人物の行動を具体	
		□文章の内容と自分の体験とを結び付け		的に想像	
		て, 感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを		している。(〔思考力,判断力, 表現力等〕Cエ)	
		山久草を読んで感じたことやガからたことを 共有すること。 ⇒思判表C(1)カ		衣坑刀守儿工/	
		◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話し			
		たり、それらを聞いて声に出して確かめたり 感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア			
		□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだ			
		りして, 内容や感想などを伝え合ったり, 演 じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ			
		したりする石動。 予心刊表し(2)イ			
*1.71. A.E.		<u> </u>			
ひろい 公園		◇質問を落とさないように聞き、絵から答え を探す。	◎【知識・技能】共進、相違、事 柄の順序など情報と情報との	◎【忠考・判断・表現』 話 9 c と・聞くこと」において、話し手が	
		△言葉には、事物の内容を表す働きや、経	関係について理解している。	知らせたいことや自分が聞きた	て聞き、学習課題に沿って質問
		験したことを伝える働きがあることに気付くこ と。 ⇒知技(1)ア	([知識及び技能](2)ア	いことを落とさないように集中し て聞き、話の内容を捉えて感想	に答えようとしている。
		○ → 3013(17) ○共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報		をもっている。(〔思考力,判断	
		との関係について理解すること。 ⇒◎知技		力, 表現力等]A工)	
		(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を			
		決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこ			
		と。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験			
		したことに基づいて、話す事柄の順序を考え			
		ること。 ⇒思判表A(1)イ			
	2	◇伝えたい事柄や相手に応じて, 声の大き さや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A			
		(1)ウ			
		◇話し手が知らせたいことや自分が聞きた いことを落とさないように集中して聞き、話の			
		内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒◎思判表			
		A(1)エ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数			
		で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ			
i e		İ			

漢字の ひろば ① 画と 書きじゅん	2	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字字配当表の第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ■経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎割き語や文と文との続き方に注意しながたり、内容のまとまりが分かるように書きしました。内容のまとまりを報験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	学年で配当されている漢字を文	◎【思考・判断・表現】「書くこと」 において、経験したことや想像 したことなどから書くことを見付 け、必要な事柄を集めたり確か めたりして、伝えたいことを明確 にしている。(〔思考力、判断 力、表現力等〕Bア)	されている漢字を書き、学習の 見通しをもって文を書こうとして
一年生で 学んだ 漢字 ①	2	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。→◎知技(1)エージャンでは、100円のでは、1	学年で配当されている漢字を文 や文章の中で使っている。(〔知 識及び技能〕(1)エ	◎【思考・判断・表現】「書くこと」 において、経験したことや想像 したことなどから書くことを見付 け、必要な事柄を集めたり確か めたりして、伝えたいことを明確 にしている。(〔思考力、判断 力、表現力等〕Bア)	されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。
じゅんじょに 気を つけて 読 み, つながりを 見つけよう		口ありとの関わりに気を付けながら,すみれ が仲間を増やす仕組みについて説明した文 章を読む。			

すみれと あり	15	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒回知技(2)ア ■話と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウロ時間的な順序や事柄の順序などを考えて選びがら、内容の大体を捉えること。⇒回思判表C(1)アロ文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オロ文章を読んで感じたことや分かったことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)アロ事物の仕組みを説明した文章な送へる活動・⇒思判表C(2)	柄の順序など情報と情報との 関係について理解している。	続き方に注意しながら、内容の まとまりが分かるように書き表	【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、内容の大体を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
「言葉あそび」を しよう	2	△平仮名四十七文字を全て使った歌のあることを知り、音読する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒⑩知技(1)ク △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 ⇒⑩知技(3)イ	言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕 (1)ク) (の【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の		【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付こうとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。
かたかなで書く言葉		△片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分ける。 △長音、拗音、促音、接音などの表記、助詞の「は」、「〜」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ	◎【知識・技能】片仮名で書く語 の種類を知り、文や文章の中で 使っている。([知識及び技能] (1)ウ)		【態度】積極的に片仮名で書く 語の種類を知ろうとし、今まで の学習を生かして文を書こうと している。
本で しらべて しょうかいしよう		△■図書館で本を探す方法を知り、生き物 について調べたことからクイズを作る。			

図書館で 本を さがそう	2		◎【知識・技能】読書に親しみ、 いろいろな本があることを知っ ている。([知識及び技能](3) エ)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出してい。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)	
「生きものクイズ」を 作ろう	6	■生き物について知りたいことを調べ、クイズを作る。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒の関係について理解すること。 ⇒の表述(3)エ ■経験したことや想像したことなどから確かとりに、伝えたいことを見付け、必要な事柄を集めたり確かとりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って(1)イ ■話ともいうと変りが分かるように言書さん。 →の部のまとまりが分かるように言書を充立とを記録したり、語と語や文と文との続き方に注書といる。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章を正したり、語と語や文ととの続き方に方を正さの内容のまとともに、間違いを正したり、語と言や文との続き方に方を正さの内容のまとまりが一貫を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文とで表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カー・ ■文章にあがまること。 ⇒思判表B(1)カー・ ■文章にありましたり、語とを記録したことを報告したり、観察したことを記録したことを報告したり、観察したことを記録したりきるなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ([知識及び技能](2)ア)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことやどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕日イ)	集めたり確かめたりし、学習の 見通しをもって「生きものクイ ズ」を作ろうとしている。
漢字の ひろば ② なかまの 言葉と 漢字	2	△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒⑩知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	学年で配当されている漢字を文 や文章の中で使っている。(〔知		【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって漢字の意味のつながりを知ろうとしている。

うれしくなる言葉	4	△言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。→◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	の内容を表す働きや,経験した ことを伝える働きがあることに 気付いている。(〔知識及び技	と・聞くこと」において、伝えたい 事柄や相手に応じて、声の大き	とを伝える働きがあることに気 付こうとし、学習の見通しをもっ
くりかえしに 気を つけて, とう じょう人物の 様子を 読もう きつねの おきゃくさま		□繰り返し出てくる言葉に気をつけて読み、繰り返しのあるお話を作る。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと、⇒知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気を付けてきまりやき、⇒の回知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから確からにして、ときりやきまりできまりがあることに対から確からにして、ときりがあるにとを明確にすること。⇒思判表の(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容を見付け、必要な事柄を集めたり発して、とっかの内容の表現のよいところを見付けること。⇒思判表の(1)オロ場面の様子に着ること。⇒思判表の(1)オロ場面の様子に着ること。⇒回思判表の(1)オロ、変章を読んで感じたことやの思判表の(1)カを具体的に想像すること。⇒回思判表の(1)カを具体的に思なを書く活動。⇒思判表の(1)カー文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒回思判表の(1)カーで感見を読んで感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表の(2)イ	言葉の響きなどに気を付けて音 読している。([知識及び技能] (1)ク)	【思考・判断・表現】「書くこと」に おいて、文章に対する感想をや 表現のよいところを見付けている。〔〔思考力、判断・表現】「読むこ着 目しまいて、物面の様子具体的に想像と別において、物面のを考力、判断・表現のよりところを見付けている。〔〔正式)の【思考・判断・表現の内容、長現】「読むこ自会の体験とを結び付けて、判断の体験とをもっている。〔〔思考力、判断、表現力等〕〔○オ)	目して、登場人物の行動を具体 的に想像し、学習課題に沿って 好きな場面を発表しようとして

いなばの しろうさぎ	5	聞き、場面の様子を想像する。	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア)		【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。
「かんさつ発見カード」を 書こう	4	■観察して同じところや違うところを見つけ、「かんさつ発見カード」を書く。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	主語と述語との関係に気付いている。([知識及び技能](1)カ) ②【知識・技能】共通、相違、事	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)	沿って簡単な構成を考え、学習 の見通しをもって「かんさつ発
「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう	2	△言葉が体系性をもって存在していることに 気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、 言葉を探したりまとめたりすることができる。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や 文章の中で使うとともに、言葉には意味によ る語句のまとまりがあることに気付き、語彙 を豊かにすること。 →◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報 との関係について理解すること。 ⇒知技(2) ア	す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。([知識及び技能](1)オ)		【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見近しをもって言葉を分類しようとしている。

話したいな、聞きたいな、夏休みのこと	5	◇夏休みの思い出を、順序を考えて話す。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢・ロ形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒即技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒の思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話した。 ⇒思判表A(2)ア		◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手にとい聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ)	【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして夏休みのできごとを紹介しようとしている。
漢字のひろば ③ 二つの漢字でできている言葉	2	△二つの漢字でできた言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エム身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)	◎【知識・技能】前学年や当該 学年で配当されている漢字を文 ヤ文章の中で使っている。([知 識及び技能](1)エ)		【態度】積極的に前学年や当該 学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって二つ の漢字でできている言葉を読ん だり書いたりしようとしている。
漢字のひろば ③ 一年生で学んだ漢字 ②	2	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒回知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	主語と述語との関係に気付いている。([知識及び技能](1)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」 において、語と語や文と文との 続き方に注意しながら、内容の まとまりが分かるように書き表 し方を工夫している。(〔思考 力、判断力、表現力等〕Bウ)	【態度】積極的に文の中における主語と述語の関係に気付こうとし、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。

したことや言ったことから, 登場 人物の考えを読もう		口登場人物のしたことを思い浮かべながら 読み, 登場人物に手紙を書く。			
わにのおじいさんのたからもの	12	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)プ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表C(1)プ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)プロ場面の様子に着目して、登場○思判表C(1)プロ文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)プロ文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)プロ文章を読んで感じたことやおりのはいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、本のではいまして、また。 ⇒ 思判表 B(2) では、またいまには、事情が関係して、本のではなどを伝えるから、またいまによります。 ⇒ 思判表 C(2)イ	の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。([知識及び技能](1)ア)	おいて、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のま	
はんたいのいみの言葉, にたい みの言葉	2	な言葉から対義語や類義語を集めることが	味による語句のまとまりがある ことに気付き, 語彙を豊かにし ている。([知識及び技能](1)		【態度】積極的に言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。
まとまりを考えて書こう		■「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを考えて、町探検報告文を書く。			
町の「すてき」をつたえます	11	詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語	「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(「知識及び技能」(1)ウ)	に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力,判断力,表現力	沿って簡単な構成を考え, 今ま での学習を生かして報告する文

しゃしんをくらべて、考えよう	□1枚めの写真から視点を定めて, 2枚め の写真になった際, 何かが起きたことを想像 する。			
この間に何があった?	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎思判表の関係について理解すること。 ⇒◎思判表の側序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウロ学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ		◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順に沿って簡単な構成を考えている。(「思考力、判断・表現】「読むこと」において、時間おなな。(「足と」において、時間を表えている。(「足)事柄の順体を起えている。(「ア)。 (「思考・判断・表現力」等〕 (こと)において、対断力、表現力「禁むこと」の体験とを結びをもった。(「思考力、判断力、表現力」で、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	事柄の順序など情報と情報と の関係について理解し、学習課 題に沿って考えたことを文章に
ー じゅんじょや様子に気をつけて読もう	様子の移り変わりを考えながら、内容の大 体を読む。			
さけが大きくなるまで	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒⑩知技(2)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序などを考えること。 ⇒思判表A(1)イ□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)ア□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒⑩思判表C(1)ウ□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒⑩思判表C(1)カ□文章を読んで感じたことや験と表話が付けて、感想をもつこと。 ⇒⑩思判表C(1)カ□文章を読んで感じたことを話した。⇒⑪忠分かったことを括りり、報告など伝えたいことを話したり、キれらを聞いて声に出して確かめたりよりする活動。 ⇒思判表A(2)ア□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア ★生活科:順序に気をつけて観察文などをまとめたり、調べたことを発表したりする。	柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ([知識及び技能](2)ア)	【思考・判断・表現】「話すこと・問くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事者の順序を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕の【思考・判断・表章の中の出ま現力等〕でウ) ②【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の出ま現力等〕でウ) ②【思考・判断・表現】「読むと自分の体験とをもつている。(〔思考力、判断力、表現力等〕でオートを記されて、対策を表現が表現力である。(〔こオ)	学習課題に沿ってさけが大きくなる様子を説明しようとしている。
二 様子をよく見て, くわしく書 こう	■見つけた物をよく見て、様子が伝わるよう に詳しく文章を書く。			

おもしろいもの。見つけたよ	10	文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)ア ■ 注意と語や文と文との続き方に注意書きした。 →思判表B(1)ウ ■ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、方を工夫を取りすること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■ 文章を読み返す習慣を付けるととの続きてまた。 ⇒□を正したり、語と語や文と文との続き方に注意書きしたのまとまりがあたりすること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■ 文章を読み返す習慣を付けるととの続きてときに表別の内容の内容と表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■ 身近なことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ★生活科:題材は生活科で扱ったものから選ぶこともできる。	使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ	において、語と語や文と文との 続き方に注意しながら、内容の まとまりが分かるように書き表 し方を工夫している。(〔思考	想を伝え合い、学習の見通しを
三 だれが、どのようにかわったかを考えて読もう		□△登場人物のしたことや言ったこと、場面の様子を読み、読書の世界を広げる。			
ないた赤おに	7	□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら、『ないた赤おに』を読み、心に残ったことを話し合う。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒⑩知技(1)ク□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒⑩思判表C(1)オ□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒⑩思判表C(1)オ□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒⑩思判表C(1)カ□対章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒即判表C(1)カ□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ☆道徳:B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	言葉の響きなどに気を付けて音 読している。([知識及び技能] (1)ク)	と」において,場面の様子に着 目して,登場人物の行動を具体	【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って心に残ったところを文章にまとめようとしている。
四 しつもんしたり答えたりして、話し合おう		◇話し合いでクラスで行う遊びを決め、「クラスお楽しみ会」を開く。			

「クラスお楽しみ会」をひらこう	8	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)ア ◇はことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア)		
みじかい言葉で	6	■心が動いたことを短い言葉で書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒ 知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒ ◎思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒ 思判表B(2)ウ	の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに		文との続き方に注意しながら、
漢字の広場 ④ 漢字の広場 ④ 漢字の広場 ④ 本作で学 / お満字 ②	2	△漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年に記当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ	配当されている漢字を読んでいる。 ([知識及び技能](1)エ ②【知識・技能】前学年や当該	◎【思考·判断·表現】「書〈こと」 「こさいって ぎいおかかしかしの	【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。

一年生で子んに漢子(3)	事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	識及び技能 (1)エ)	にあいて、語と語やメとメとの 続き方に注意しながら、内容の まとまりが分かるように書き表 し方を工夫している。(〔思考 力、判断力、表現力等〕Bウ)	見通しをもって文や文章を書こ
五 わかりやすくせつめいする ための、くふうをたしかめよう	/□■説明の順序を正しく捉えながら読み、おもちゃの作り方を説明する。			

	4 /
「しかけ絵本」を作ろう □説明の順序に気をつけながら、「しかけ絵本」 【知識・技能】言葉には、事物の 【思考・判断・表現】「書くこと」に 【態度】近 の仕組みや作り方を書いた文章を読む。 内容を表す働きや、経験したこ おいて、自分の思いや考えが 事柄の	≝んで時間的な順序や 頂序などを考え. 学習課
△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験し 付いている。([知識及び技能] に沿って簡単な構成を考えてい うとしてし	
たことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ 「いいている。(CARBIX COTX RE) につって 同手な特別で ちんてい プログラ	· ··••
■目分の思いや考えが明確によるように、手柄	
の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思 ◎【思考・判断・表現】「読むこ	
判表B(1)イ ◎【芯考・判断・表現】 読むこ	
■話と話や文と文との続き方に注意しながら、 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫 事柄の順序などを考えながら、	
内谷のよこようかうかである方で言さなとうでエス 宇宙や小原子なことであれるかっち。 大名とし、 大名とし	
プローに	
ら、内容の大体を捉えること。一の思判表の(1)	
ア	
□文章の中の重要な語や文を考えて選び出す レルコンドング 文音の中の重要	
こと。 ⇒◎思判表C(1)ワ か語や立た妻ラで選び中してい	
一	
ロス草を読んで恋したことで力がりたことを共 4/*・//	
12 有すること。 ⇒思判表C(1)カ	
■身近なことや経験したことを報告したり、観察	
■ 対応・ローン 作品のフェーと・収音のレン・ 助家 したことを記録したりするなど、見聞きしたことを	
書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	
口事物の仕組みを説明した文章などを読み、分	
かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判	
表C(2)ア	
☆生活科・図工:順序に気をつけて作業の手順	
を説明する文章を書く。	

ナナナ 4の4のかいまたま ニニ	■セナナルの佐川大め歩び士の順点ナギュー@	3.7 知識,世代] 开海 和海 声	◎【田孝、刘屹、主珥】「妻ノニし、	「能産」业川砂ノ語し語り立り立
おもちゃのせつめい書を書こう		丙の順序など情報と情報との 関係について理解している。 【知識及び技能】(2)ア)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(『思考カカ、判断カ・表現力等〕書くこと」において、文章を読み、間違いを付けているとともに、明を正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(「思考カ、判断カ、表現カ等〕Bエ)	との続き方に注意し、学習の見 通しをもって説明する文章を書

しを読もう		口音読をとおして言葉のリズムや響きを楽し		【態度】積極的に文章を読ん
せかいじゅうの海が	2	むとともに、無限に広がる想像の世界を楽しむ。	味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。([知識及び技能](1)オ)	共有し、学習の見通しをもって
六 場面や人物の様子をくわし く読もう		□様子を詳しく読んで,読み方を工夫して音 読発表会を開く。		
かさこじぞう	11	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味語彙を豊かにすること。⇒知礬さなどに気を付けて音読すること。⇒知技(1)カ △音話や活・伝承ののの場がでは、まかりでは、まが国の伝統的な言語やでは、まが国の伝統的な言語を出して、まが国の伝統的な言語をできなどを工夫すること。⇒思判表(1)ウ(会話し手が知らせたいことや自分が聞き、活の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表C(1)で、会には、まなどでは、まなど、ようにより、ないとを発えて感想をもつこと。⇒思判表C(1)での大体を捉えてに、まなど、カーの大体を捉えてに、まなど、カーの大体を捉えてに、まなど、カーの大体を捉えるでは、まなど、カーの大体を捉えると。⇒の思判表C(1)オーン章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オーン章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒の思判表C(1)オーン章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒の思判表C(1)カーシの内容と自分の体験とを結び付けて、感想をは、カーで感じたことや分かったことを表して、表演を記さいまなど伝えたいことを話しり、それらを聞いて声に出して正かめたり、方によりする活動。⇒思判表C(2)アートを表して、表演をには、まなど、大いことを話しりにたりする活動。⇒思判表C(2)アートを表して、表述をは、まなど、大いことを話しり、表述をは、まなど、大いことを話しり、表述をは、まなど、まなど、まないまなど、まないまなど、まないまなど、まないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないま	読している。([知識及び技能] (1)ク)	的に想像し、学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。

むかしのあそび	3	△日本に古くから伝承されている昔遊び(正月遊び)を知り、実際に遊ぶことをとおしてその魅力を知る。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 ⇒◎知技(3)イ			【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付き、学習の見通しをもってかるたを楽しもうとしている。
むかしのあそびをせつめいしよう	4	◆昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒ ②知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)コ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたりを想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア 感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア		と・聞くこと」において、相手に 伝わるように、行動したことや	【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして昔の遊び方を説明しようとしている。
主語とじゅつ語		△文を読んで、主語と述語の対応を考え、正しく使うことができる。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア	◎【知識・技能】当該学年までに 配当されている漢字を読んでい る。(〔知識及び技能〕(1)エ)		【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。
漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字	2	△同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を誘むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、大や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	◎【知識・技能】当該学年までに 配当されている漢字を読んでい る。(〔知識及び技能〕(1)エ)		【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている
七 じゅんじょに気をつけて書こう		■したことや身のまわりのできごとの中から 書くことを見つけ、思い出して、順序を考え て書く。			

こんなことができるようになったよ	10	の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書 慣れること。 ⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒周科の順序に沿って、一部では「一部では、一部では、一部では、一部では、一部では、一部では、一部では、一部では、	音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎで」)の中に大文を文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)	において、語と語や文と文との 続き方に注意しながら、内容の まとまりが分かるように書き表 し方を工夫している。(〔思考	たり、語と語や文と文との続き方を確かめたりし、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
音や様子をあらわす言葉	3	△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使う。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「ヘ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒対技(1)ウム身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ	している。([知識及び技能](1) オ)		【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。

漢字の広場 ⑥ 組み合わせてできている漢字	2	△同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を誘むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、大や文章の中で使うとともに、第2学年にの当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エム共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	配当されている漢字を読んでいる。([知識及び技能](1)エ)		【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。
漢字の広場 ⑥ 一年生で学んだ漢字 ④	2	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字記書されている漢字を書き、文や文章の中で使うさともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年の中で使うこと。 →◎知技(1)エ 本文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ ■話と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 習慣を付けるとともに、別違いを正したり、語と語や文と文との続き方にきき読み返りつ 間違いを正したり、語と語や文と文との続き方とを確かめたりすること。 →思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ	や文章の中で使っている。([知 識及び技能](1)エ)	において, 語と語や文と文との 続き方に注意しながら, 内容の	されている漢字を書き、学習の
八 場面の様子や登場人物の 行動に気をつけて読もう		口お話の順序に気をつけて読み、 あらすじ をまとめて紹介する。			

アレクサンダとぜんまいねずみ	16	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)オロ文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オロ文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■身近なことを設録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表C(2)イン読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ☆道徳:B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに 気付いている。(「知識及び技能」(1)ア)		分の体験とを結び付けて, 感想をもち, 学習課題に沿って文章
国語の学習 これまで これから	2	◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒○思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感者を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	と・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを高いように集中しいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。((思考力、判断力、表現力等]Aエ)	において、経験したことや想像 したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確か めたりして、伝えたいことを明確	書くことを見付け、今までの学習を生かして思い出したことや 三年生でどんな学習をしたいか